

Researcher Mobility Grant 報告書

< 招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar >

1. 氏名/Name

門傳昌章 MONDEN Masafumi

2. 所属機関・職名/Affiliation (Home Organization)・Position

シドニー大学 上級講師

3. 研究期間（入国日～出国日）/Period of Stay (from the date of entry to departure)

2026 年 7 月 5 日～2026 年 7 月 24 日

4. 専攻/Field of Research

カルチャー・スタディーズ（ファッション、ジェンダー、表象文化）

5. ホスト教員氏名と所属学部研究科等/Name of host teacher and affiliation

高馬京子 情報コミュニケーション学部

6. 講演会の概要（タイトル、日時、場所、参加人数、内容）

第一回目講演会

タイトル：「Japan Pop: The Appeal and Potential of Japanese Visual Culture」

日時・場所： 7 月 9 日（木）1 限目、グローバルフロント多目的室

参加人数：18 名

講演内容：「Japan Pop: The Appeal and Potential of Japanese Visual Culture」のタイトルで英語の講演を行われた。国際連携本部開催の短期プログラム「Japan in Transition」に参加していた留学生及び日本の学生、及び教員の合計 18 名が参加した。本講義の内容としては、「ポップ」や「カワイイ」という表層の下には、日本の視覚文化にはしばしば、既成概念を打ち破り、型破りで、時には不安を掻き立てるような世界が潜んでいたとした上で、主に日本の少女マンガに焦点をあて、日本の視覚文化の魅力と可能性について考察するというものであった。

第二回目講演会

タイトル「Beyond Boundaries: Material Culture and the Spirit of Challenge」

日時・場所 7 月 9 日（木）2 限目、グローバルフロント多目的室

参加人数 17 名

講演内容：こちらも「Japan in Transition」に参加していた留学生及び日本の学生、及び教

員の合計 17 名が参加した。本講義の内容としては、物質文化とは、身体と社会、規範と逸脱、目に見えるものと目に見えないものといった境界が交差する場であるとし、男性モデルを事例としいかにして既存の枠組みに挑み、新たな文化的可能性を切り拓いてきたかを考察するというものであった。

短期プログラム「Japan in Transition」において課されたプレゼンテーション準備の際にもグループの中には、これらの二つの授業で学んだことを参考に発表準備を行うなど授業に参加した学生たちも多く学びを得ていたことが伺えた。またその短期プログラム「Japan in Transition」に参加した日本人学生のサポートを受け、留学生たちが準備した勉強の成果である最終発表会の審査員も門傳博士には務めていただきフィードバックを頂くなど本プログラムに参加した留学生・本学の学生の教育にも大きなお力添えを頂き感謝したい。

第三回目講演会

タイトル：「自己を織るー 装い・表現・日本の ヴィジュアル・カルチャー」

日時・場所：7 月 16 日（木）5 限目、和泉キャンパス図書館ホール

参加人数：4 名

内容：本講演では、コミュニケーションであると同時に自己表現でもあるファッションを考察され、装い・アイデンティティ・身体をめぐる理論を手がかりに、衣服が「同調」と「個性」という相反する欲求をいかに調停するのかを論じられた。門傳博士は、装いは社会の規範や期待をどこまで「逸脱」しうるのか、それともむしろそれらを再確認するものなのかという問をたて、そのうえで、ストリートファッションやアイドル文化など、日本のヴィジュアル・カルチャーの事例を通して、こうした実践が着る者のアイデンティティ・真正性・行為主体性（エージェンシー）について何を語るのかを本講演において議論した。装う者とは、与えられた文化をただ受け取る消費者なのか、それとも自らが生きる文化の意味を能動的に作り変える生産者なのか、という問いを通して、装いと視覚文化をめぐる議論を展開された。参加された他校のファッション研究を専門とされている先生、本学大学院生とで門傳博士を囲んで、参加者それぞれの研究テーマと絡めながら、門傳博士が提示した本講演のテーマ、方法論について、少人数であったがゆえにファッションとジェンダー研究について非常に多角的で活発な議論を繰り上げられることができた。

7. 研究課題、研究概要、研究期間中の活動実績 / Research Theme, Outline, Results

本招聘は招聘者が行っている科研費基盤研究 C「日仏メディアにおいてファッションを通して構築される非/規範的ジェンダー表象」（24K15565）の助成も受けたものでもあり、その研究活動の一環である。招聘者が本科学研究課題において研究・調査している非/規範的ジェンダー表象について、3 回の講演を通して門傳博士に少女マンガ、男性モデル等を通しての事例、独自の分析、考察を提示していただいた。心より感謝申し上げます。